共に絵本を読むことは、喜びを共有すること

つき組　平島

つき組の子ども達、みんな絵本が大好きです。
競うように絵本を運んできて「あい！」「（よん）で！」と差し出してきます。

みんなのお気にいり
「あそびましょ」松谷みよこ・丸木俊

心の栄養は喜びの分かち合い

「一心同体の経験」

家族が自分の膝に幼い子を座らせ身体を触れ合わせて本を読むことは、文字通り一心同体の経験を家族で行うことです。

以前、福音館書店の元社長であり「こどものとも」の創刊者、「ぐりとぐら」などの発行を手がけた児童文学研究者でもある松居直さんのご長男、松居友さんの講演で忘れられないエピソードを聴きました。

息子さんの友さんは、お仕事で多忙な父親の直さんに反発心が強かったそうです。

ある日、自分の子どもさんに「ぐりとぐら」の本を読んだ時、

「ぼくらのなまえは　ぐりとぐら」

「ぐりぐら　ぐりぐら」

思いがけず、お父様の声が自分の声に重なってよみがえってきたそうです。

すっかり忘れ去っていたけれど、忙しい合間にお父さんが読んでくれた日々があったと思い出されたそうです。

「ぐりとぐら」はお父さんと二人でした旅、忙しくて兄弟もいて二人きりで旅をしたことがなかったけれど、確かに心の旅を父子でしたのだと、人生の旅の始めにお父さんは共にいてくれたのだと涙があふれてきたそうです。

そういう親子の心の原体験が人生の土台となると思うのです。